

もうすぐ4月です。

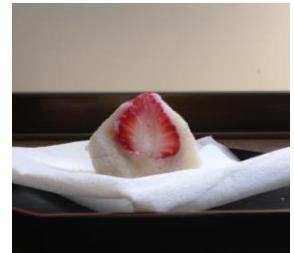
昨日の井の頭公園は所々桜色。ちょっと寒そうな来園者の目を楽しませていました

そんな季節の変わり目・・ですが、
ゆうゆう館には季節や曜日に関係なく、というより、
既にそんな事は卓越して毎日を過ごしている方がおられます。
そんな方とお話する時は日々の慌ただしさを忘れさせてくれる大切な時間です



「もう夕方よね。私帰るわ」「えーまだ明るいよ」「あらそう？でもお夕飯作らなきゃ」
実はこの方は「ご家族のお迎えがくるまでここでお過ごし頂く事」と
ご家族とお約束しているのです。
その為、従事者はその時その時、あれこれお声をかけてお迎えまでお過ごし頂くのです、

「あっそうだ！頂き物の和菓子があるの。Aさん一緒にいかが？」
和菓子大好きなFさん「あらそう！悪いわ！いいの？」
「いいわよ。そのかわり美味しいお茶いれてくださる？」 Aさん、そそくさと部屋へ戻られ、
お茶碗を温めゆっくりと急須を回しています
「はいどーぞ」と差し出したお菓子をみて、一瞬ちょっと渋い顔・彼女の好きな大福もちですが、
餅には大豆がなく、中が白あんだと予想がついたからです。
それを見つめている、Aさんに私「これ、苺大福なのよ」「苺？」
90年超生きてきた彼女の辞書に「**苺大福**」は存在していなかったようです。
「そう、中に苺が入っているの」マジマジと苺大福に見入るAさん。
二つの苺大福を4つに切り分けると「ほんとだわ、苺が入ってる」と
見ているばかりで一向に口に運びません。
そこで私が一口ほおばり「ちょっと酸っぱい苺ととてもあうのよ」その言葉につられ彼女も一口。
すると「マー美味しい。ほんと苺だわ・あらーっびっくり！！初めて食べたわ。」
それからの彼女は「どこで売っているの？いつ頃からあるの？誰が作ったの？」と次々と
同じ質問をされます。何回同じ事を聞かれても何回もいい加減な回答しかできない私を責める
わけでもなく、ずっと驚きと絶賛の言葉を言い続け、3切れを召しあげました。
食べ終わると手を合わせ「苺大福。美味しかった。また食べたいね 苺の季節に」と・・・



日々同じ様に過ごしてしまう日常にも新たな発見や驚きはいっぱいあるのかもしれませんが。
ちょっとした「きっかけや勇気」があれば何気ない日常が「特別な日」となるという事があるのです。
それはたとえ何歳になっても同じなんですよ

先週、今までの素晴らしい人生経験を持ちつつ新たな体験に挑戦しようとする方々に
お会いする事ができました。「初めて」は誰にでもちょっと不安があるものですが、
とてもポジティブな好奇心を皆さんお持ちでした。
だからかな？・・とても明るく素敵なお方ばかりでした。
そんな方とこれからもっと「良い時間」が過ごせたらと思う.....平成28年の4月です。